

4 企業会計決算の状況

県が独立採算性を原則とする企業的色彩の強い事業を行う際に、法律や条例によって設置するもので、地方公営企業法の全部又は一部の適用を受ける公営企業の会計をいいます。

企業会計は、公共の福祉を目的とするとともに、企業の経済性を発揮することも求められており、その経理については、地方公営企業法の定めるところによります。

この会計方式は、一般のいわゆる官公庁会計が現金主義により経理されるのに対し、発生主義に基づく複式簿記方式により経理される点で大きく異なっています。

三重県では、公共の福祉を増進するため、水道事業、工業用水道事業、電気事業及び病院事業の4事業の経営を行っていますので、以下、それぞれの企業会計ごとに、その決算状況を説明します。

1 水道事業の概況

営業関係では、南勢志摩水道用水供給事業（志摩系：給水能力41,000? /日、南勢系：給水能力128,150? /日）及び北中勢水道用水供給事業（北勢系木曾川水系：給水能力80,300? /日、北勢系三重用水系：給水能力51,000? /日、北勢系長良川水系：給水能力6,400? /日、中勢系雲出川水系：給水能力81,416? /日、中勢系長良川水系：給水能力58,800? /日）の2事業を運営し、本年度は県内16市町に対し、延べ81,044,582? の給水を行いました。

平成19年度の営業成績は、表14、図21及び巻末資料23のとおり、事業収益は11,394,195千円（対前年度比101.5%）で、内訳は、営業収益10,773,050千円（対前年度比100.9%）及び営業外収益621,145千円（対前年度比114.5%）であり、また、事業費用は10,053,562千円（対前年度比99.5%）で、内訳は、営業費用7,787,299千円（対前年度比101.4%）及び営業外費用2,266,263千円（対前年度比93.9%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額1,340,633千円（対前年度比119.6%）が当年度の純利益となりました。また、バランスシート（貸借対照表）については、図22及び巻末資料23をご覧ください。

なお、事業収益と事業費用の年度別の推移については、図23及び巻末資料24をご覧ください。

一方、建設事業は平成10年度から北中勢水道用水供給事業（北勢系第2次拡張事業長良川水系、総事業費25,377,000千円、給水能力18,000? /日）及び伊賀水道用水供給事業（総事業費22,566,100千円、給水能力28,750? /日）の建設を実施しています。

北中勢水道用水供給事業では、平成23年度の全部給水開始に向け、計画的に専用施設の整備を実施しました。

伊賀水道用水供給事業では、平成21年度の給水開始に向け、計画的に専用施設の整備を実施しました。

表 14 平成 19 年度損益計算書 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位:千円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	7,787,299	営業収益	10,773,050
原水及び浄水費	2,372,310	給水収益	10,769,455
配水費	488,498	その他営業収益	3,595
業務費	441,909		
総係費	477,640		
減価償却費	3,699,229		
資産減耗費	307,713		
営業外費用	2,266,263	営業外収益	621,145
支払利息	2,146,211	受取利息	81,218
受託工事費	117,643	他会計補助金	418,883
雑支出	2,409	補助金	64
		受託工事収益	117,643
		雑収益	3,338
当年度費用合計	10,053,562		
当年度純利益	1,340,633		
合 計	11,394,195	合 計	11,394,195

(四捨五入のため合計が合わない場合があります。)

図 21 平成19年度損益計算書<P/L> (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位:千円、% [構成比])

借 方	貸 方
<p>営業費用 7,787,299 (68.3%)</p>	<p>営業収益 10,773,050 (94.5%)</p>
<p>営業外費用 2,266,263 (19.9%)</p>	<p>営業外収益 621,145 (5.5%)</p>
<p>当年度純利益 1,340,633 (11.8%)</p>	

(四捨五入のため合計が合わない場合があります。)

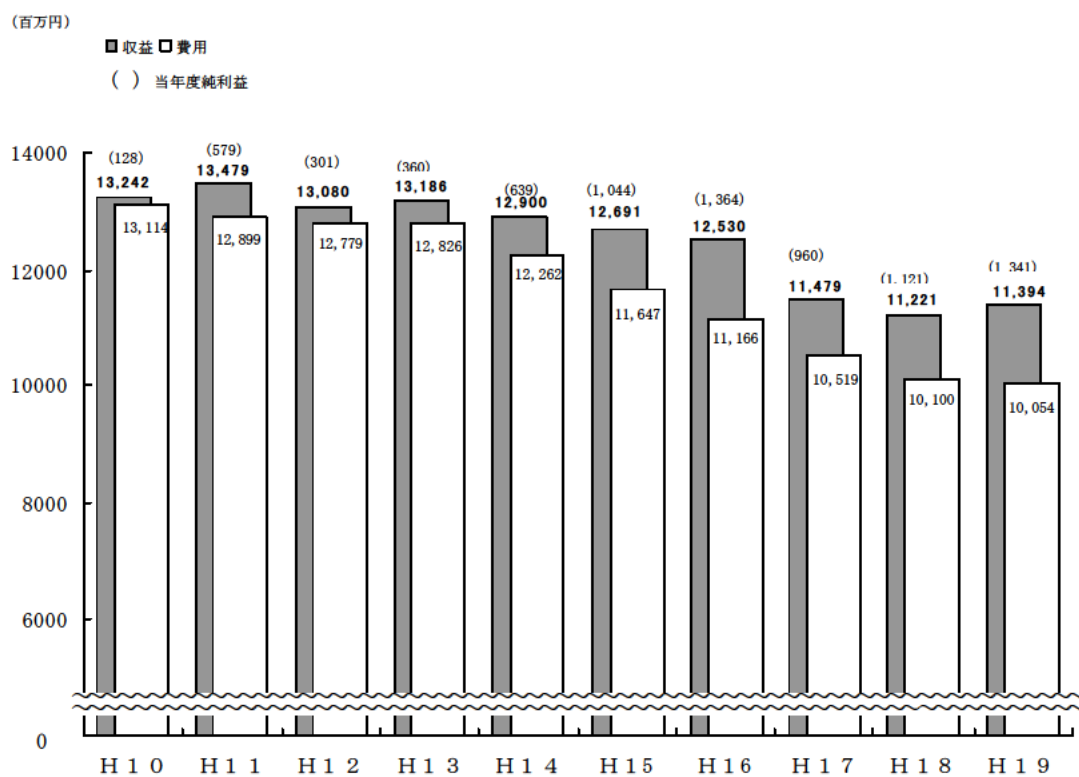
図 22 貸借対照表<B/S> (平成 20 年 3 月 31 日現在)

(単位：千円、% [構成比])

借 方	貸 方
固定資産 180,677,971 (92.3%)	固定負債 9,041,299 (4.6%)
	流動負債 3,045,711 (1.6%)
流動資産 14,974,500 (7.7%)	資本金 131,869,013 (67.4%)
	剰余金 51,696,447 (26.4%) 資本剰余金 50,354,349 利益剰余金 1,342,098

(四捨五入のため合計が合わない場合があります。)

図 23 年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため差引が合わない場合があります。)

2 工業用水道事業の概況

営業関係では、北伊勢工業用水道事業（契約水量 711,440 ? /日）、多度工業用水道事業（契約水量 10,000 ? /日）、中伊勢工業用水道事業（契約水量 20,190 ? /日）、松阪工業用水道事業（契約水量 38,500 ? /日）の4事業を運営し、県内企業の生産活動における水需要に応えるため、平成19年度においては104工場に対し、延べ 178,863,630 ? の工場用水を供給しました。

平成19年度の営業成績は、表15、図24及び巻末資料23のとおり、事業収益は6,345,181千円（対前年度比102.3%）で、内訳は、営業収益6,243,826千円（対前年度比101.5%）及び営業外収益101,356千円（対前年度比211.0%）であり、また、事業費用は5,491,835千円（対前年度比94.7%）で、内訳は、営業費用4,693,191千円（対前年度比95.4%）、営業外費用746,919千円（対前年度比94.8%）及び特別損失51,725千円（対前年度比55.2%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差 853,347 千円（対前年度比 213.3%）が当年度の純利益となりました。また、バランスシートについては、図25及び巻末資料23をご覧ください。

なお、事業収益と事業費用の年度別の推移については、図26及び巻末資料24をご覧ください。

一方、改良事業については、地震等の災害に備えるとともに工業用水の安定給水を図るため、北伊勢工業用水道等の老朽劣化施設の更新、補強工事など施設改良を計画的に実施しました。

表15 平成19年度損益計算書（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	4,693,191	営業収益	6,243,826
原水及び浄水費	1,533,762	給水収益	5,589,393
配水費	241,063	その他営業収益	654,433
業務費	265,223		
総係費	375,041		
減価償却費	2,265,908		
資産減耗費	12,194		
営業外費用	746,919	営業外収益	101,356
支払利息	746,209	受取利息	87,670
受託工事費	692	受託工事収益	692
雑支出	18	雑収益	12,994
特別損失	51,725		
その他特別損失	51,725		
当年度費用合計	5,491,835		
当年度純利益	853,347		
合 計	6,345,181	合 計	6,345,181

（四捨五入のため合計が合わない場合があります）

図24 平成19年度損益計算書<P/L> (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：千円、%〔構成比〕)

借方		貸方	
	営業費用 4,693,191 (74.0%)		営業収益 6,243,826 (98.4%)
	営業外費用 746,919 (11.8%)		
特別損失 51,725 (0.8%)			
	当年度純利益 853,347 (13.4%)		営業外収益 101,356 (1.6%)

(四捨五入のため合計が合わない場合があります。)

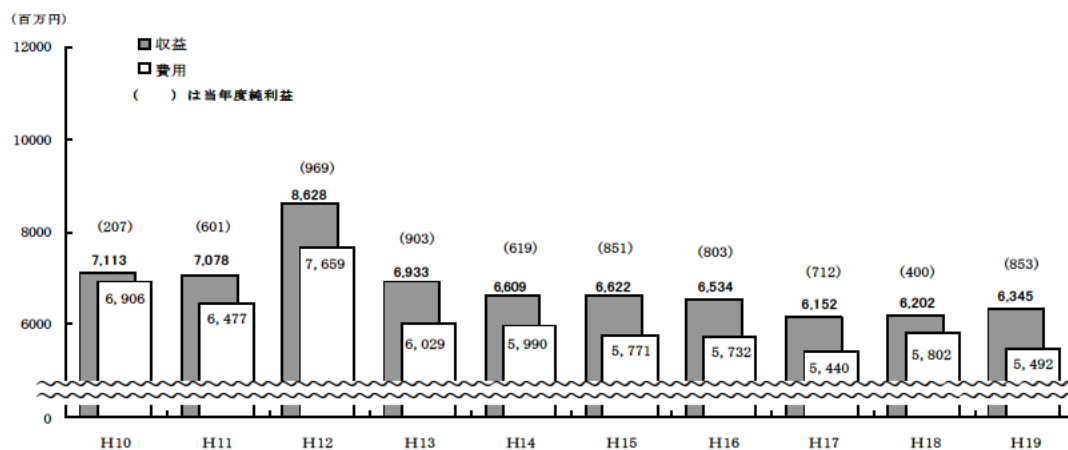
図25 貸借対照表<B/S> (平成20年3月31日現在)

(単位：千円、%〔構成比〕)

借方		貸方	
	固定資産 120,548,883 (90.0%)	固定負債 11,996,714 (9.0%)	
		資本金 79,795,722 (59.6%)	流動負債 487,281 (0.4%)
流動資産 13,347,793 (10.0%)		剰余金 41,616,959 (31.0%)	
		資本剰余金 40,757,678	
		利益剰余金 859,281	

(四捨五入のため合計が合わない場合があります。)

図26 年度別の総収益・総費用の推移



3 電気事業の概況

営業関係では、宮川ダム地点での降雨量が極端に少なかったことや、青田発電所水車発電機分解点検や長発電所災害復旧改造工事による発電停止などから、発電量は目標電力量 299,952,000kWh に対し、供給電力量 211,202,579kWh (70.4%) となりました。

三重ごみ固形燃料発電所は、安定してRDFを処理することができたことから、RDF 52,313トンを受け入れ、68,863,000kWhの発電を行いました。

平成19年度の営業成績は、表16、図27及び巻末資料23のとおり、事業収益は3,091,590千円(対前年度比82.8%)で、内訳は、営業収益2,198,788千円(対前年度比87.5%) 附帯事業収益820,292千円(対前年度比107.3%) 営業外収益28,210千円(対前年度比7.5%) 及び特別利益44,300千円(対前年度比55.5%) であり、事業費用は3,380,534千円(対前年度比93.1%)で、内訳は、営業費用2,023,012千円(対前年度比105.9%) 附帯事業費用1,076,893千円(対前年度比110.7%) 営業外費用280,467千円(対前年度比41.4%) 及び特別損失162千円(対前年度比0.2%) です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額288,943千円が当年度の純損失となりました。また、バランスシートについては、図28及び巻末資料23をご覧ください。

なお、事業収益と事業費用の年度別の推移については、図29及び巻末資料24をご覧ください。

一方、建設事業については、平成9年度からの継続事業である川上発電所建設事業(総事業費1,705,698千円・最大出力1,200kW)で、水資源機構に対し共同施設分担金を負担しました。

表16 平成19年度損益計算書 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	2,023,012	営業収益	2,198,788
宮川第一水力発電費	107,399	電力料	2,196,481
宮川第二水力発電費	196,065	その他営業収益	2,307
宮川第三水力発電費	75,176		
長水力発電費	164,223		
三瀬谷水力発電費	462,049		
大杉貯水池費	130,602		
青蓮寺水力発電費	17,475		
大和谷水力発電費	170,618		
蓮水力発電費	121,139		
青田水力発電費	163,822		
比奈知水力発電費	55,535		
一般管理費	358,908		
附帯事業費用	1,076,893	附帯事業収益	820,292
R D F 焼却発電費	1,076,893	電力料	486,994
		その他附帯事業収益	333,298
営業外費用	280,467	営業外収益	28,210
支払利息	279,384	受取利息	28,132
雑支出	1,083	雑収益	78
特別損失	162	特別利益	44,300
臨時損失	162	固定資産売却益	44,300
		当年度収益合計	3,091,590
		当年度純損失	288,943
合 計	3,380,534	合 計	3,380,534

(四捨五入のため合計が合わない場合があります。)

図 27 平成 19 年度損益計算書<P/L> (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位：千円、% [構成比])

	借 方	貸 方	
	営業費用 2,023,012 (59.8%)	営業収益 2,198,788 (65.0%)	
	附帯事業費用 1,076,893 (31.9%)	附帯事業収益 820,292 (24.3%)	営業外収益 28,210 (0.8%)
	営業外費用 280,467 (8.3%)	当年度純損失 288,943 (8.6%)	特別利益 44,300 (1.3%)
特別損失 162 (0.0%)			

(四捨五入のため合計が合わない場合があります。)

図 28 貸借対照表<B/S> (平成 20 年 3 月 31 日現在)

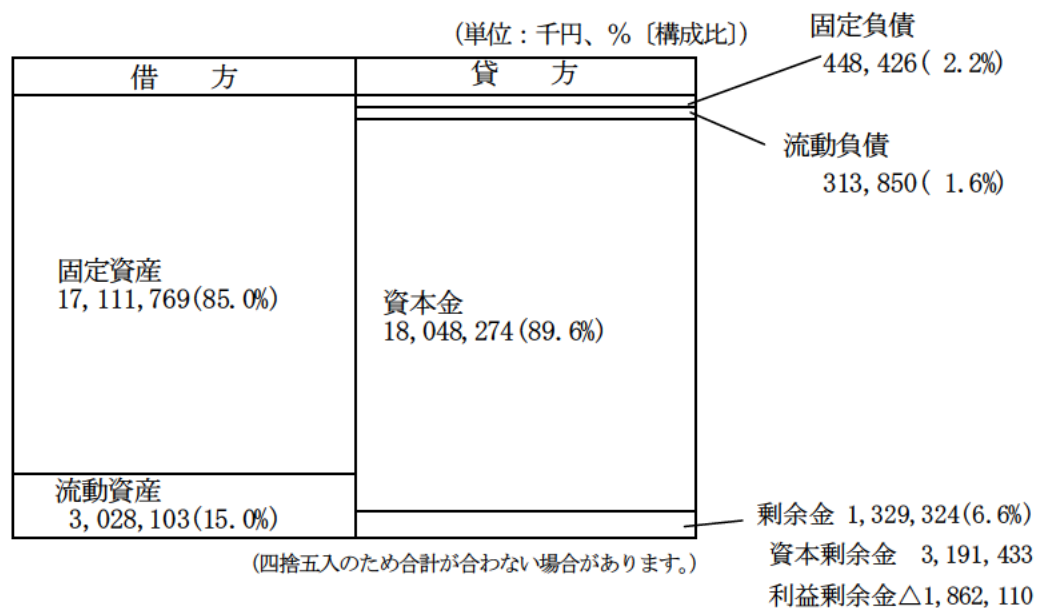
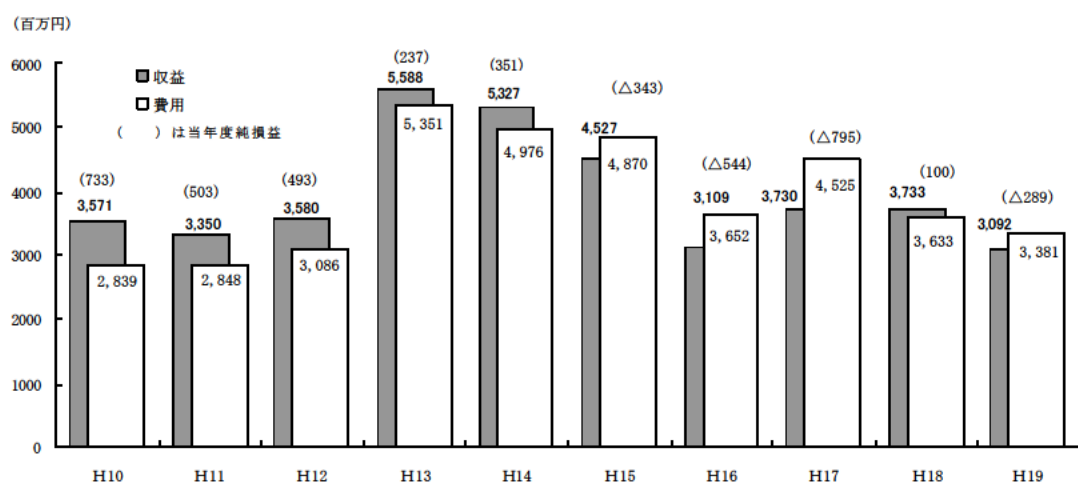


図 29 年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため差引が合わない場合があります。)

4 病院事業の概況

三重県病院事業は、総合医療センター、こころの医療センター、一志病院及び志摩病院の4病院を運営し、県民の健康で文化的な社会の実現に貢献するため、良質で満足度の高い医療の継続的な提供に努めています。平成19年度は、三重県保健医療計画（第3次改訂）に明記された県立病院としての4つの役割（医療提供の視点、人材育成の視点、先進的な取組みの視点、安全・安心をささえるセーフティネットの視点）を果たすべく、各病院の経営方針の徹底と全職員参画型の経営に取り組んできました。しかしながら、度重なる診療報酬の引き下げ改定や地域偏在等による医師及び看護師の不足により、病院機能が十分に発揮できなくなっており、結果として収支は赤字基調となっています。

平成19年度における患者の利用状況は、入院患者数が延べ355,524人（1日平均971.4人）、外来患者数が延べ365,592人（1日平均1,492.2人）で、前年度に比べ入院患者数は延べ5,529人の減少、外来患者数は延べ3,548人の減少となりました。

平成19年度の営業成績は、表17、図30及び巻末資料23のとおり、医業収益は138億1,399万3千円、医業費用は169億9,375万5千円で、差引きした医業損失は31億7,976万2千円となりました。

これに他会計補助金等の医業外収益34億6,107万1千円と企業債利息等の医業外費用12億1,752万5千円を加減した経常収支は、9億3,621万円6千円の赤字となりました。また、旧塩浜病院院長公舎跡地の売却益の計上による特別利益を940万4千円と、志摩病院旧外来診療棟の除却損及び過去に引き当てるべきであった退職給与引当金計上等による特別損失を4億1,911万4千円計上しました。

以上の結果経営収支は、総収益が172億8,446万8千円、総費用が186億3,039万4千円で、13億4,592万7千円の純損失を計上し、前年度に比べ2億2,035万8千円の減益となりました。また、貸借対照表（バランスシート）については、図31及び巻末資料23をご覧ください。

なお、総収益と総費用の年度別の推移については、図32及び巻末資料24をご覧ください。

また、施設及び設備の整備については、志摩病院の新外来棟建設事業、診療機能の充実・強化を図るための高度医療機器等の導入を実施し、4病院で20億5,593万8千円を執行しました。

表17 平成19年度損益計算書 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
医業費用	16,993,755	医業収益	13,813,993
給与費	9,522,937	入院収益	9,932,929
材料費	3,354,883	外来収益	3,567,191
経費	2,735,212	その他医業収益	313,873
減価償却費	1,287,925		
資産減耗費	37,886	医業外収益	3,461,071
研究研修費	54,912	受取利息配当金	18,031
医業外費用	1,217,525	他会計補助金	449,699
支払利息及び企業債取扱諸費	813,495	補助金	36,579
繰延勘定償却	77,331	負担金	2,871,022
患者外給食材料費	1,964	その他医業外収益	85,739
雑損失	324,735	特別利益	9,404
特別損失	419,114	当年度収益合計	17,284,468
		当年度純損失	1,345,927
合 計	18,630,394	合 計	18,630,394

(四捨五入のため合計に合わない場合があります。)

図 30 損益計算書<P/L> (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：千円、% [構成比])

借 方	貸 方
医業費用 16,993,755 (91.2%)	医業収益 13,813,993 (74.1%)
医業外費用 1,217,525 (6.5%)	医業外収益 3,461,071 (18.6%)
特別損失 419,114 (2.3%)	当年度純損失 1,345,927 (7.2%)
	特別利益 9,404 (0.1%)

(四捨五入のため合計に合わない場合があります。)

図 31 貸借対照表<B/S> (平成 20 年 3 月 31 日現在)

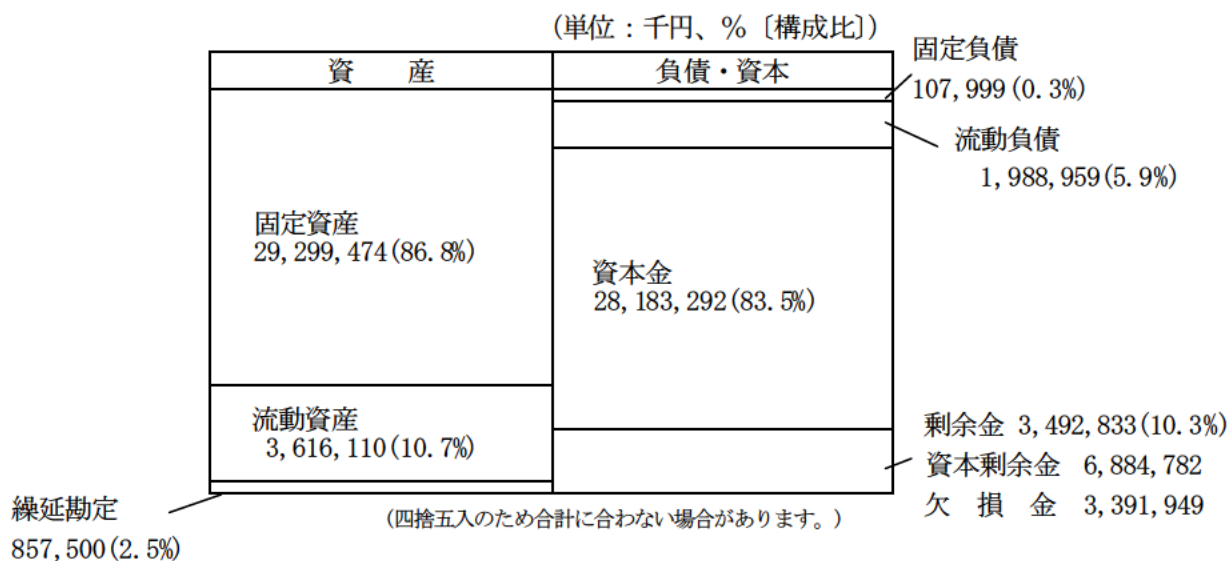
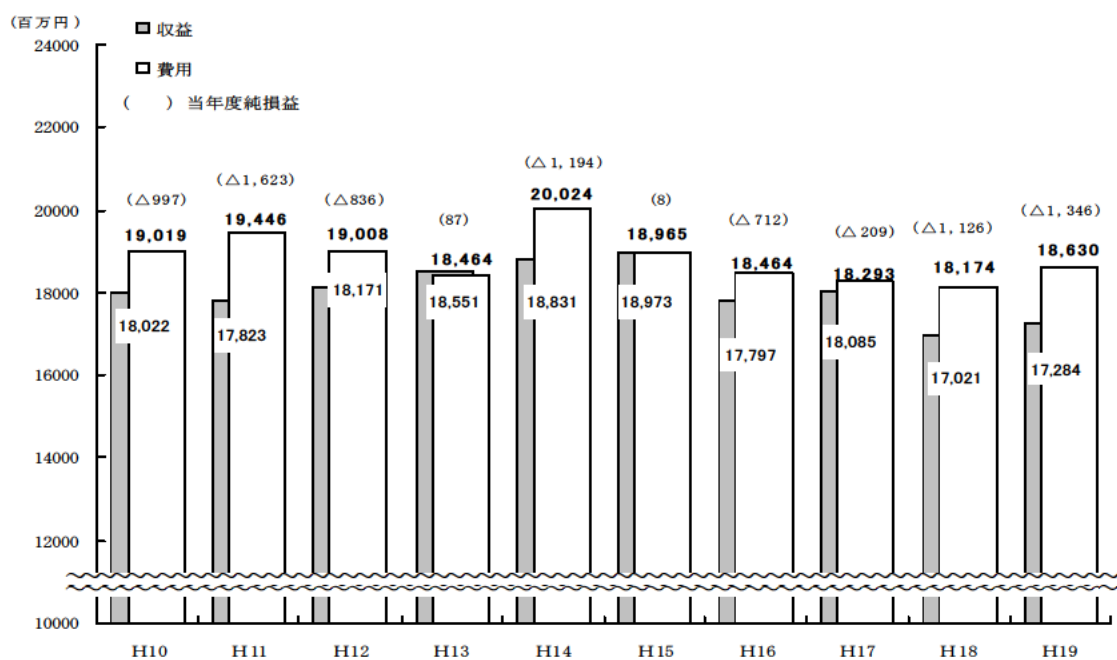


図 32 年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため差引が合わない場合があります。)